

【本時の子どもの姿…第5時】

これまで子どもたちは、ペアでベーシックムーブメント、ニューヨーク、ハンド・ツー・ハンドのフィガーを練習してきた。授業の導入場面では、(C10)「だいたいできるようになってきたけど、フィガーをつなげようとするとき、ハンド・ツー・ハンドができなくなっちゃう」と語り、大勢の子どもたちがフィガーをつなげることに難しさを感じていた。そこで、本時では3つのフィガーをカッコよくつなごうという課題が位置付けられた。子どもたちはペアやグループで、DVDを見ながら動きを確認したり、リーダーが動きを教えてあげたり、チャチャチャのリズムを声に出したり、リーダーの動きにパートナーが動きを合わせたりしながら踊りを繰り返していった。そして子どもたちは、3つのフィガーの動きを中心に練習していった。つなげるためには、それぞれのフィガーの動きやステップを正しく覚えることが大事になると捉えていたようだ。

教師が「つながるようになったペアはありますか」と問うと、いくつかのペアが挙手した。更に「どうやったらできたの」と訪ねると、(C11)「回数を決めた」、(C12)「リーダーがやること(フィガーを変えるとき)を言ってくれる」と子どもたちは語り、実際に何組かのペアの踊りを見合った。その踊りを見た子どもたちは、(C13)「S君がニューヨークの時、手が回っていてかっこいい」、(C14)「すごいスピード感があってよかった」などと感想を語った。その後、パートナーをチェンジしたり、曲を変えたりして踊っていった。繰り返し踊る中で、子どもたちの表情がほぐれ笑顔が増え、動きも大きくなっていった。心が解放されていく姿を感じた。

授業の振り返りで子どもたちは、(C15)「息を合わせてチャチャチャと言えるようになって、できたのでよかった」、(C16)「つなぎがスムーズにできるようになった。わけは、ステップになれてきたし、リーダーがリードしてくれたから」、(C17)「つなぎはちょっとだけど、スムーズになってきた。」などと学習カードに記入していった。

(2) この事例から見えてきたこと

授業後半のパートナーをチェンジして踊る場面で、T児は始め下方を身ながら踊っていた。何度も踊りを繰り返す中で、相手の顔や目を見る回数が徐々に増え、特にフィガーが変わりそうな雰囲気を感じると、更にパートナーの表情をまじまじと見ていった。言葉での会話は無いが、パートナーに触れる指や腕の力の入れ具合や、表情などを自ら感じ取ろうとする姿があった。フィガーのつなぎ方を意識することによって、子どもたちは、より相手の気持ちや動きを理解しようとしていったのではないだろうか。

このように、ボールルームダンスはパートナーの心を感じたり、自分の心と相談したりしながら学習できる教材であることが見えてきた。また、子どもたちは繰り返し踊る中で、体がリズムに応じて動くという「しなやかな動き」を高めていった。

4 来年度への課題

- ①運動の特性に応じた「しなやかな動き」について、引き続き姿を追いながら子どもの動きの高まりを研究していきたい。
- ②友やパートナーの動きや気持ちを感じながら、自分の動きや心を見つめ返すことを体育の授業の中で、どう位置付けていけばよいか研究していきたい。